

丘珠空港の利活用検討について ①

丘珠空港の概要



※白枠：防衛省管理 赤枠：国土交通省管理

- 市街地から約 6km と近く、利便性が高い
- 陸上自衛隊との共用空港であり、昨年の胆振東部地震では被災地支援のためのヘリの拠点として活躍
- 滑走路長は離島並みの 1,500m でありプロペラ機で就航している北海道エアシステムの拠点となっている
- H28 年度から夏期に運航されている FDA のリージョナルジェット機、道内で H29 年度から事業化されている医療ジェット（メディカルウイング）の機材は冬期間の運航ができない
- H29 年度旅客数 251,179 人、H30 年度旅客数 266,041 人であり、7 年前と比較すると連続で増加し倍増となった



検討結果 2 ～ 利活用策（抜粋）

災害時に SCU として利用可能とする
機材・システムの整備

- 災害時に SCU として利用可能とするための機材、システムを整備

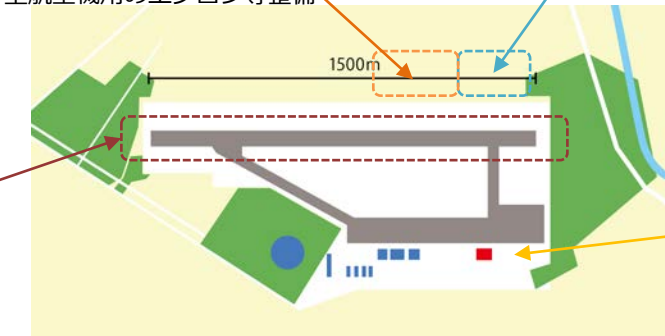
消防ヘリ・医療ジェット用の
エプロン等整備

- 札幌市消防ヘリ用のエプロン、格納庫等の整備
- 医療ジェット（メディカルウイング）用のエプロン・格納庫等を併せて整備

- 小型航空機用のエプロン等整備

滑走路延伸
300m・500m

- 1,800m 又は 2,000m に滑走路を延伸整備
- 新たに就航可能となる航空機に対応した既存施設の補強

施設の
バリアフリー化

- 可動式エプロンルーフ又はボーディングブリッジの整備
- 制限区域内のエレベーターの整備

平成 28～29 年度 丘珠空港の利活用に関する検討会議

検討に到った経緯

道内 7 空港民間委託・札幌までの北海道新幹線開業・航空機の低騒音化や必要滑走路長の短縮化などの、丘珠空港を取り巻く環境の変化を踏まえ、**北海道と札幌市が連携し、国とも情報交換しながら**丘珠空港を更に利活用するために調査検討を開始。

検討結果 1 ～ 丘珠空港の役割

丘珠空港が担う役割	利活用の方向性
道内航空ネットワークの拠点空港	生活路線としての道内路線の拡大・多頻度運航 都心からの近さを活かした新千歳空港との差別化 生活路線と共に観光路線としても有効活用するための空港及び周辺整備 他交通機関・他空港と競合する路線の利用促進
道外や国外とを結ぶ都市型空港	東北路線の誘致・利用促進 道外との交流を促進する路線の誘致 観光客の増加に向けた国際線就航に関する検討の継続 LCC の就航に関する動向調査の継続
道内医療を支える空港	医師や患者のための定期航空路線の利便性向上 ドクターヘリとメディカルウイングの相互連携 広域医療搬送・SCU（臨時医療拠点）としての利用 バリアフリーの促進
防災機能を持つ空港	防災機能の強化 災害時に医療施設として活用できる格納庫の設置
ビジネスジェット機利用に対応する空港	ゼネラル・アビエーションの運航事業者及び利用客の利便性向上 国際線の受入に関する検討の継続
報道・測量等で利用する小型航空機基地空港	小型航空機基地としての利便性向上による企業誘致

平成 30 年度 丘珠空港の利活用検討

住民説明会

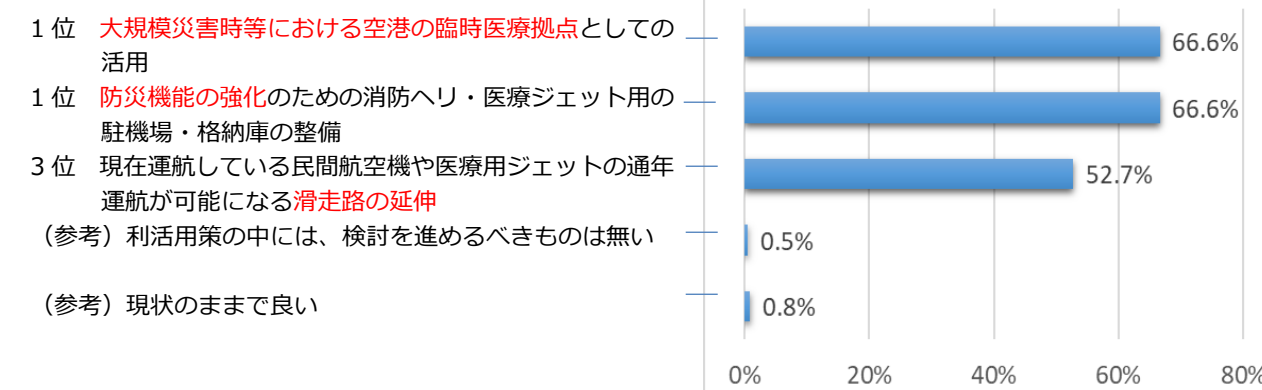
- 東区・北区の空港周辺地域の 9 連合町内会の地域にて実施、延べ 209 名の参加
- 主な意見
 - 滑走路延伸は利便性の向上に繋がるため前向きに検討してほしい
 - 空港までのアクセスが悪いので、改善してほしい
 - 過去の地元合意は守られないのか等、検討の進め方への不満
 - 滑走路延伸や増便等により騒音の悪化や危険性の増加が懸念される
 - ハード整備ではなく福祉等のソフト整備にもっと税金を使うべきだ

利活用検討関係者会議

- 地域住民・有識者・空港関係者からなる会議では、丘珠空港の利活用の在り方や利活用策について議論して頂き、市に対し助言を頂いた
- 主な助言
 - 現在の空港利用価値を高めることは積極的に実施し、将来像についてはより深く検討し、同時並行的に取り組んでほしい
 - 多くの人に関心を持って頂き、広い範囲で意見を収集するよう努めてほしい

市民 1 万人アンケートの結果

「丘珠空港の利活用に関する検討会議」報告書の 21 の利活用策の中で検討を進めるべきと思う策



丘珠空港の利活用検討について ②

令和元年度 丘珠空港の利活用検討

今年度は、これまでの調査検討・議論を踏まえ、“(仮称)丘珠空港の将来像(素案)”を提示して議論を行い、丘珠空港の利活用の在り方を示す“(仮称)丘珠空港の将来像(案)”をとりまとめる予定。

利活用検討委員会

- 札幌市及び北海道のビジネスや観光、防災、医療等を支える役割を持つ丘珠空港について、更なる利活用を通じて札幌市の活力の向上に活かすため、その将来像について検討を行うことを目的とする
- 公募市民・地域住民・有識者の12名で構成し、年4回程度開催予定
- 委員は以下のとおり ※今後、文書で正式に任命予定

分野	氏名	
地域住民 3名	東区	三澤繁実会長(丘珠連合町内会)
	北区	坂田文正会長(屯田連合町内会長)
	東区・北区	北島英司会長(丘珠空港周辺のまちづくり連絡協議会)
公募市民委員 3名	—	(公募市民委員)
	—	(公募市民委員)
	—	(公募市民委員)
学識経験者 ・有識者 6名	地域政策	石井吉春教授(北海道大学)
	都市・地域計画	田村亨教授(北海商科大学)
	交通工学	高野伸栄教授(北海道大学)
	観光	河本光弘教授(札幌国際大学)
	環境	大沼進教授(北海道大学)
	まちづくり	安田睦子氏(インタラクシオン研究所 代表)

住民説明会

- 丘珠空港の将来像の検討について、幅広い範囲の市民に説明し、意見を頂くことを目的とする
- 市民が気軽に立ち寄り、行政スタッフと双方向の会話を通じて情報を得て自由に意見することが可能となるオープンハウス型住民説明会を実施予定
- 幅広い範囲の市民を対象とする機会をつくるため、人通りの多いチカホなどで、平日だけではなく土曜日・日曜日にも実施予定
- 羽田空港での実施例



ワークショップ

- 丘珠空港の将来像の検討にあたり様々なアイデアや気付きについて、市民と行政と一緒に話し合う場をつくることを目的とする
- 30人程度を対象とし、1回開催予定

次年度(令和2年度)以降の丘珠空港の利活用検討

“(仮称)丘珠空港の将来像”のとりまとめに向けて、空港周辺地域住民へ説明会を実施し、議論を行う予定。

「(仮称)丘珠空港の将来像」(素案)骨子イメージ

1. 丘珠空港の概要

- 沿革
- 空港概要
- 過去30年間における経緯
 - ～ 過去のジェット化議論から利活用検討の動きまで、「空港整備に関する基本的な考え方」(地元案)

2. 丘珠空港を取り巻く環境の変化

- 取り巻く環境の変化
 - ～ 道内7空港の運営の民間委託、北海道新幹線の札幌開業、航空機の低騒音化、インバウンド増等

3. 丘珠空港の将来像

- 将来像
 - ～ これまでの調査検討・議論を踏まえ、“素案”として提示
“道内航空ネットワークの拠点空港として、一年を通して、ビジネス・医療・防災機能を持つ生活路線を維持・拡大しながら、道内外の観光需要も受け入れる広域交通拠点としての機能を持つ空港”というイメージ
- 担う役割
 - ～ 道内航空ネットワーク拠点、道外との交流基盤となる交通結節点、メディカルウイング基地、災害時の航空輸送・防災機能、ビジネスジェット利用、小型航空機基地等

4. 将来像実現に必要な取組

- 取組期間
 - ～ 概ね10年を目途に将来像の実現に資する機能を有する空港となることを目標とし、その時点での社会情勢を考慮してその後の利活用目標を再設定する
- 空港機能の強化
 - ～ 航空旅客の増加に対応した利便性向上、メディカルウイングや定期航空便の通年運航化に資する機能強化
- 空港アクセスの拡充
- 路線の拡充
- 民間活力の導入